

福生市議会

正和会 だより 第54号

令和6年3月
発行
福生市議会正和会
責任者
佐藤 弘治

●正和会ホームページ
<https://fussa-seiwakai.moo.jp/>
●メールアドレス
fussa-seiwakai@drive.ocn.ne.jp

福生市議会正和会

検索



ごあいさつ

会長 佐藤 弘治

まだ白い寒気があるなかにも、新たな草木の緑が芽吹き始めた3月に開かれた第1回定例会期間中は、市役所の北側で咲くソメイヨシノの改良種ファーストレディーの濃いピンクと新設された中央コースを走る福祉バス「たなばた号」のイエローが、福生の春の風景を彩どり、正和会所属議員の活動を後押ししているかのようでした。

正和会では、「持続可能なまちづくり」への取り組みを重視した令和6年度の予算要望を行い、3月議会では令和6年度予算審査が行われました。多くの要望が取り入れられた予算案に賛成。本会議でも承認されました。

そのなかで、新たに明らかになった施策として、老朽化・長寿命化等に伴う公共施設の更新や整備に備えるため「都市施設整備基金」、「庁舎維持管理基金」、「学校施設等整備基金」の3つの基金が、新たに設ける「まちづくり施設整備基金」に統合され、効率的・機動的な活用が図られます。

また、新たに教育長をリーダーとする「ふっさの学校夢・未来プロジェクト」が立ち上がる事が明らかになりました。その目的は、学校再編計画を策定する前段階

としての基本構想、ランドデザインを作成することにより、持続可能なまちづくりを進めつつ、新たな時代の福生市の教育を学校施設の再編をしていくなかで創りあげていこうというものです。

こうした新たな施策に大きく期待しつつ、全ての事業が着実に進むよう、今後もしっかりと市政運営を注視していきます。未来の福生市を確かなものとするため、未来を託す子どもたちのため、令和6年度も正和会一丸となって力を尽くします。



(左から) 三沢市を行政視察 (関連記事は裏面にあります) 石川義郎・小澤芳輝・小林貢 (政調会長)・武藤政義・佐藤弘治 (会長)・清水義朋 (相談役)・幡垣正生・山崎貴裕 (総務会長)・森田哲哉・仲間正司

令和6年度 東京都西多摩建設 事務所への要望事項

正和会では東京都に対して令和6年度インフラ整備に関する要望を行いました。

- ① 福生都市計画道路 3・3・3 の1号新五日市街道線の拡幅整備事業促進 (国道16号線と五日市街道との交差点接続調整を含む)
- ② 福生都市計画道路 3・4・2号志茂中央線 (多摩橋通り) の整備促進



令和6年3月時点での様子 (志茂二付近)

- ③ 福生都市計画道路 3・3・30号武蔵野工業線 (産業道路) 延伸の促進
- ④ 主要地方道 29号立川・青梅線 (新奥多摩街道) の歩道整備及び電線類の地中化の促進
- ⑤ 都道 165号伊奈・福生線 (あきる野市側) の圏央道インターへのアクセス道路としての整備促進
- ⑥ 都道の道路照明灯のLED化の推進
- ⑦ 都道歩道の根上がりによる段差の解消とインターロッキングの緩み点検及び補修
- ⑧ 志茂中央線整備事業及び武蔵野工業線延伸事業の完成に伴う多摩橋通り原ヶ谷戸第二交差点周辺の渋滞対策
- ⑨ 主要地方道 7号杉並・あきる野線 (睦橋通り) の渋滞緩和

令和6年度 福生市政に関する要望

正和会では55項目について令和6年度予算要望を行いました。

<主な重点要望事項>

【安全・安心なまちづくりの推進】

- ① 有機フッ素化合物 (PFAS) の市内地下水への影響を確認するための調査の実施
- ② 住まいの省エネバリアフリー住宅改修等工事助成事業の更なる充実
- ③ 駅及びその周辺のバリアフリー化の促進

【福祉対策】

- ① 子ども家庭センターの設置 (包括的な相談・支援体制の構築)
- ② 高齢者に対するデジタルデバイス対策の充実

【学校教育関連】

- ① 福生市教育センターの機能強化に向けた人材の新規配置
 - ア いじめ、不登校対策の強化
 - イ オンライン相談の検討等
- ② ヤングケアラー・若者ケアラーへの支援 (相談窓口の設置)

【商工業対策】

- ① 社会情勢に対応した、市内事業者への経済対策の充実
- ② 起業支援の強化
- ③ 新たなまちの賑わいの創出

【その他】

- ① 熱中症対策の強化 (高

齢者への啓発、民生委員による啓発、式典時の予防対策、町会・自治会の熱中症対策への補助)

② 歴史・文化と自然を守るための市民協働 (関係人口も含む) の更なる推進

③ 市内の桜の保存・更新

④ DXの更なる取組み

ア ChatGPTの活用

イ 行政手続きにおけるオンライン化の更なる推進 (スマートフォンやアプリによる保育料・給食費等の納入)

⑤ 福東グランド及び市営福生野球場の整備 (クラブハウスの改修、スコアボードの新設、トイレの増設、フェンスの新調等)



正和会で作成した要望書を加藤市長に提出 (武藤議長は他の公務により欠席)



日野市の発達・教育支援センターエールの先進的な取り組みを視察しました。エールは0・18歳までの、発達面、行動面、学校生活面において支援を必要とする子ども、子どもの育ちについて不安のある保護者、関係機関に対し、福祉分野と教育分野が一体となった切れ目のない支援、総合的な相談や支援を実施しています。組織体制が特徴的で、市長部局の健康福祉部と教育委員会教育部の両部署にそ

日野市の発達・教育支援センター「エール」を視察

令和5年度視察・研修等

学校給食費の無償化に係る要望書を市に提出

東京都は、昨今の経済情勢を考慮し小中学校の給食費について保護者の負担軽減に取組む市区町村を支援するため、市区町村が支援を行う場合、最大で給食費の半額を補助する方針を固め、新年度予算案に239億円を盛り込むことを決めました。

これまで正和会は、学校給食費の無償化について、市にとって大きな財政負担となることはもちろん、学校給食法の規定を踏まえ、国の責任において対応すべきものであると主張してきました。

現在もその立場に変わりはありませんが、今般の東京都の給食費半額補助の方針を受け、福生市においても、国で論点が整理され、法的に無償化がなされるまでの間、市独自で予算措置を行うよう学校給食費の無償化に係る次の2項について市に緊急要望しました。

- ① 給食費の無償化に向け必要な予算を2024年度予算に盛り込むこと
- ② 給食費の無償化を永続的にを行うための予算措置を行うよう国に求めること

それぞれ発達・教育支援課が設置されており、②センター長（市長部局）は教育委員会（教育部参事）の併任併命により、福祉と教育の調整を行います。また③就学前児童を担当する通園係の職員以外は、子ども部と教育委員会教育部との併任併命を受けています。発達や教育に係る相談・支援の窓口が一本化され、わかりやすい相談・支援体制を構築。また、個別の支援計画書の電子システム化を企業との連携で構築していることも福祉と教育の一体的な相談体制構築の大きな柱となっています。福生市は児童発達支援センターに関して4月の設置を予定している。今後もこうした先進市がどのように課題に取り組むか、成果を出していくかを注視し、福生市の子育て支援の更なる充実、発展につなげていきます。

全国市長会主催の第85回

第85回全国都市問題会議 IN八戸

青森県三沢市に所在する、航空自衛隊並びに在日米軍について、騒音対策や周辺対策に関する調査を行うため三沢基地を視察しました。

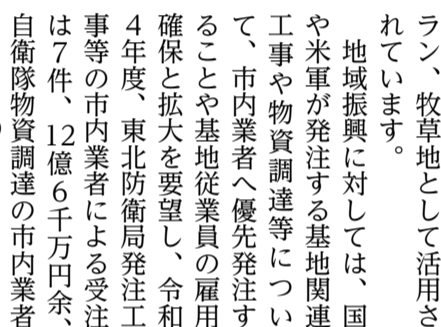
航空自衛隊三沢基地行政視察



全国都市問題会議（青森県八戸にて開催）に出席しました。テーマは「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」。東京藝術大学長でアーティストの日比野克彦氏の基調講演「アーティストの役割って何だろう」をはじめ、青森県八戸市長熊谷雄一氏の主報告「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」や株式会社アントラースFC取締役社長鈴木秀樹氏の「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」など首長や実践家の大変貴重な講演を聞くことができました。アートプロジェクトが、アーティストのアイデアと地域の協働を通じて、地域資源を活用し新たな魅力を発見し発信してきた事例や企業がスポーツを柱に行政と協力し合い地域課題を解決したり、教育に資する取り組みが行われている事例など大変参考になりました。文化・芸術・スポーツの真価を見定め、市民の主体性を育むと同時に、企業をはじめとする多様な団体との一歩進んだ連携を行政は推し進める必要があると感じました。

三沢基地は昭和20年米陸軍に接収。昭和33年に基地の日米共同使用が開始。昭和53年航空自衛隊小牧基地の第3航空団が移駐。現在、安全保障上でも大変重要な基地となっています。

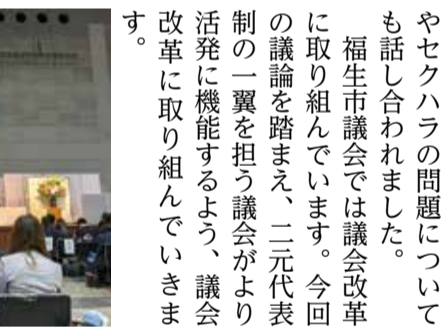
三沢市の騒音対策・周辺対策



このような整備等の事業を行うにあたっては騒音指定区域が設定されており、騒音が著しい地区については、集団移転を行っています。説明によると552戸、面積は84・7haの範囲に及ぶ地域住民が集団移転し、移転跡地は、公園やドッグラン、牧草地として活用されています。地域振興に対しては、国や米軍が発注する基地関連工事や物資調達等について、市内業者へ優先発注することや基地従業員の雇用確保と拡大を要望し、令和4年度、東北防衛局発注工事等の市内業者による受注は7件、12億6千万円余、自衛隊物資調達の市内業者の受注は19件、1億1千万円余となっています。また、三沢市と米軍三沢基地との連絡協議会が設置されており、相互の親善を図るとともに、市民と米軍の間で発生する諸問題に関する情報交換を行っています。

今回の視察では、騒音指定地区の集団移転が計画的に行われていることや、連絡協議会による情報交換が行われていることなど、まちづくりや市民への情報提供等を考える上で大変に参考となりました。さらに研究し基地対策の更なる充実を目指す取り組みを行っています。

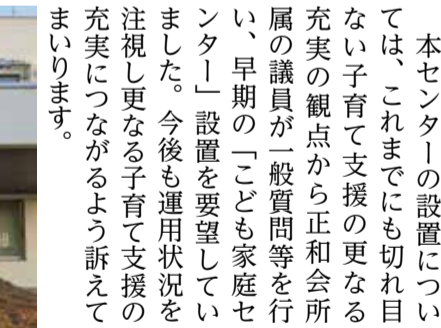
北九州市で行われた第18回全国市議会議員長会研究フォーラム IN北九州



令和5年度統一地方選挙の投票率は一部の例外を除いて過去最低となっており、無投票当選も深刻化。立候補者が定員を下回る定員割れが続出しました。一方、新たな傾向として女性議員割合が増加し過去最高となったことなどが議論に挙げられました。さらには、女性議員に対するパワハラやセクハラの問題についても話し合われました。福生市議会では議会改革に取り組んでいます。今回の議論を踏まえ、二元代表制の一翼を担う議会がより活発に機能するよう、議会改革に取り組んでいきます。

市では、児童福祉法等の一部改正（令和4年6月）を受け「こども家庭センター」が福生市保健センター内2階に設置され、4月より運用が開始されます。これにより「子育て世代包括支援センター」（母子保健機能）と「子ども家庭支援センター」（児童福祉機能）が統合され、更なる一体的な相談体制が整い、妊産婦並びに子育て世帯や子どもたちにとってより相談しやすき環境が整備されます。

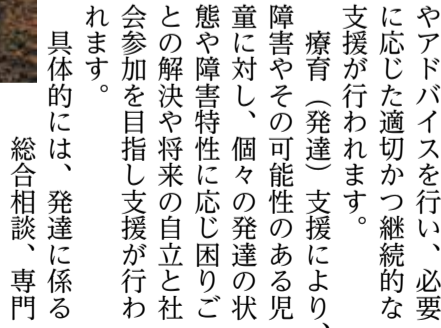
福生市 こども家庭センターが設置



子育てに困難を抱える世帯がこれまで以上に顕在化してきています。こうした状況等を踏まえ、児童の権利の擁護が図られた児童福祉施策を推進するため、厚生労働省により、要保護児童等への包括的かつ計画的な支援の実施、また児童福祉及び母子保健に関し包括的な支援を行うための「こども家庭センター」の設置が努力義務化されました。本センターの設置については、これまでも切れ目のない子育て支援の更なる充実の観点から正和会所属の議員が一般質問等を行い、早期の「こども家庭センター」設置を要望してまいりました。今後も運用状況を注視し更なる子育て支援の充実につなげるよう訴えてまいります。

発達に課題のある子どもたちの増加に対応するため、4月から福生市福祉センター内に児童発達支援センターが開設されます。これまで、正和会所属議員が同センターの設置を求める市民の要望書提出に深くかわり、また一般質問を通じて設置を強く要望、令和6年度の開設に向け予算要望を行ってまいりました。

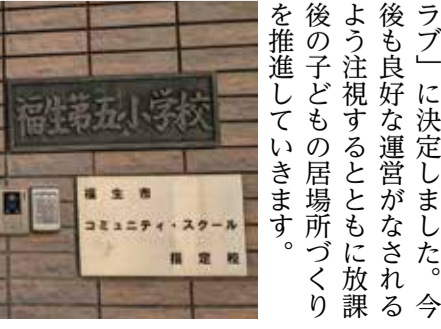
福生市 児童発達支援センターが開設



同センターでは、18歳未満の児童及びその家族等からの発達に関する相談を受け付け、専門職による支援やアドバイスを行い、必要に応じた適切かつ継続的な支援が行われます。療育（発達）支援により、障害やその可能性のある児童に対し、個々の発達の状態や障害特性に応じ困りごとの解決や将来の自立と社会参加を目指し支援が行われます。具体的には、発達に係る総合相談、専門相談、保護者交流会、親子療育支援事業等を通じて、発達に課題のある子どもたちやその保護者への支援が行われます。全ての子ども達に輝く

未来があります。一人一人に寄り添った支援がなされるよう施設運営を注視していきます。

福生第五小学校に学童クラブ「ゴッチクラブ」が設置



福生第五小学校内に学童クラブ「ゴッチクラブ」が設置されます。これまで子どもたちは、わかたけ会館に併設しているわかたけクラブあるいは田園児童館内の田園クラブに通所していました。各クラブへの通所に当たっては、通所時間がかかるとことや交通量の多い道路を横断することなど、危険性も指摘され課題となっていました。学校施設内への学童クラブの設置については、以前より保護者などから要望があり、正和会所属議員がこれまで一般質問や委員会等で設置を訴え、令和5年4月には福生第一小学校では臨時スマイルクラブが運営されています。名称については、児童に対するアンケートを実施した結果、第五小学校のマスケットキャラクター、ゴッチくんになみ「ゴッチクラブ」に決定しました。今後も良好な運営がなされるよう注視するとともに放課後の子ども居場所づくりを推進していきます。